

お子さんやお孫さんにワクチンを勧める前に

「新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、また、感染や重症化を予防する効果も確認されています。時間の経過とともに感染予防効果や発症予防効果が徐々に低下する可能性はありますが、重症化予防効果は比較的高く保たれていると報告されています。」(厚生労働省HPより)

上記のようにすでにワクチンは一定の役割を果たしたと言えるかもしれない。しかし12歳未満の子どもたちへの接種については慎重さも必要かもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページなどに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は多い。ここでは厚労省のホームページなどから、接種前に知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

ワクチン、予防接種とは

予防接種とは、感染症の原因となる病原体に対する免疫ができる体の仕組みを使って、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。

一般に、感染症にかかると、原因となる病原体(ウイルスや細菌など)に対する「免疫」(抵抗力)ができます。免疫ができることで、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりするようになります。

予防接種とは、このような体の仕組みを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。

※厚生労働省HPより

厚生労働省ホームページなどから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後
重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者(0歳~20歳未満)が新型コロナワクチンを接種するメリットは何だろうか? 厚労省の資料(図①)によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重度の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死扱いになったもの」と東京都発表。つまり、これまでに「コロナ感染で死亡した健康な未成年者はおらず、重症化もほとんどしていない。」

図① 新型コロナウイルス感染による死亡人数(累計)

※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(令和4年1月18日24時時点)

健康な未成年者にワクチン接種は必要でしょうか?

これまでオミクロン株も含めた新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもは接種しない」と主張している。しかしその目的のために、子どもや若者達に「自己責任」で健康を賭かせる「自己責任」は、大阪府泉大津市の南出市長、大阪府立大学の井上正康名誉教授(分子病態学)から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

この状況を抱いた要因のひとつは、国や自治体が躍起になって「接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要なくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

しかしその目的のために、子どもや若者達に「自己責任」で健康を賭かせる「自己責任」は、大阪府泉大津市の南出市長、大阪府立大学の井上正康名誉教授(分子病態学)から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

ワクチンの安全性は?

厚生労働省はホームページに「ワクチンが直接的に不正性器出血(不正出血)や月経不順を起こすことはありませんが、イギリスでは生理関連の副作用を訴える報告が3万件以上に上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉経した生理が再開したという副作用まで報告されています。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が出てきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起こっている。

厚生労働省は「重篤結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を

ワクチン接種と1400人超の死亡は
本当に関係ない?

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合も含まれて、厚労省は一人として因果関係を認めていない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「現時点で、新型コロナワクチンの接種が原因で多くの方が亡くなった」とは「ありません」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

図② ワクチン接種後、何日目に死亡したか

厚生労働省HP「新型コロナワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要(令和4年1月21日)」を基にゆうネットが作成

POINT!

厚労省HPなどから推察される
新型コロナワクチン2つの事象

- ① 接種後翌日までに死亡した人がいる。
- ② 接種後死亡者の主な死因は、血栓症や循環器系障害。

「ワクチン接種」が原因で死亡した人があるのでは?

図③

※厚労省HP「死因別単別別」にみた性別死亡人数を基にゆうネットが作成

日本国内の死亡者統計(2020年 約137万人)

新型コロナ
感染死者【累計】
(2021年12月21日まで)
1.8万人

新型コロナウイルスは日本人にとって深刻な病気でしょうか?

確認する手続きを特例承認で省略したため、厚労省も今後数年にわたって何が起ころうか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。それは人への長期的な影響が誰にも予測できないことを意味する。

また、ワクチンが生産機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。製薬会社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分が卵巣や精巣主体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「新型コロナ

ナワクチンも含め、これまでに日本で使用されたどのワクチンも、不妊の原因になるという科学的な根拠は報告されていません。」と書かれている。

これについて前出の井上正康名誉教授は「コロナワクチン接種は始まったばかりであり、不妊の根拠が報告されることは、これから数年~数十年後のことである。何らかの異常や有害事象が起る可能性は否定できない。臨床試験中の美

試験とはそういうものであり、動物実験で危険性が示唆されている治療薬を生産世代に接種すること自体極めて非常識である」と警告を鳴らし続けている。すでに全国の医師390人が連名でワクチン接種中止を求める嘆願書を厚労省に提出しているが、今後も死亡や生理不順や無月経、生理痛などの健康被害が増え続けられれば、薬害事件に発展する可能性もある。

その大半が厚労省などのホームページで公開されているものだ。ところがテレビやインターネットのニュース情報では、接種のメリットや安全性が強調されがちで、リスクは積極的に報道されない。だからこそ自己情報を取りに行くことが大切だ。新聞や本など様々な情報に触れ、ワクチン接種のメリットとデメリットを正しく理解することが、今、国民一人一人に求められている。

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や各種報道による情報を基にしています。



わが子を守るのには、あなただけ

厚生労働省ホームページなどから「未成年接種」を考えました。詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

右2次元バーコードからもご覧頂けます。▶▶▶
<https://jcovid.net/>

累計寄付金額 204,524,752円
(2021年11月30日~2022年2月14日17時10分時点)

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記2次元バーコードよりご意見をお寄せください

ご意見・ご感想をお聞かせください。

メール mail@dbank.jp